

第2章 2021年イラン大統領選挙とライースイー政権の成立

貫井 万里

はじめに

2021年6月18日に実施されたイラン大統領選挙の結果、保守強硬派のイブラヒーム・ライースイー司法長官が、大統領に選出された。アリー・ハーメネイー最高指導者の息のかかった監督者評議会が事前審査で有力な対立候補を排除したため、選挙戦は比較的知名度の高いライースイー司法長官にとって有利に展開した。そのため、今回の大統領選挙は、有権者による「選挙」というより、実質的には最高指導者による「任命」の色彩が濃かった。今回の選挙の結果、強硬保守派が最高指導者に直属するイスラーム革命防衛隊（Islamic Revolutionary Guards Corps: IRGC）に加え、司法、立法、行政の三権の全てを掌握した。

本稿の目的は、ライースイー政権の成立の背景と、それによってイラン政治のパワーバランスがどのように変化し、ポスト・ハーメネイー体制に向けてどのような方向に進みうるのかについて、現時点での展望を描写することにある。最初に、第14期イラン大統領選挙を概観し、次にライースイー大統領の選んだ閣僚の顔ぶれから新政権の特徴を浮き彫りにする。

1. 2021年イラン大統領選挙の概要

2021年6月18日に実施されたイラン大統領選挙の結果、保守強硬派のイブラヒーム・ライースイー司法長官が、約1802万票（62.0%）を得て第14期イラン大統領に選出された。第2位のIRGC元総司令官のモフセン・レザーイー公益判別評議会事務局長は、約344万票の得票（11.8%）、第3位の穏健派のアブドゥルナーセル・ヘンマティー前中央銀行総裁は約244万票の得票（8.4%）であった¹。ハーメネイー最高指導者の息のかかった監督者評議会が事前審査で有力な対立候補を排除するというあからさまな事前操作に抗議して、多くの有権者が選挙をボイコットしたことにより、投票率は革命後最低の48.8%を記録した。2013年と2017年の大統領選挙の投票率がいずれも約73%に上ったことと比較すると、明らかに低い数値である。

これまでのイラン・イスラーム共和国の選挙は、必ずしも完全に自由な選挙ではないとしても、「イスラーム体制を信奉する人物」という条件内で、改革派、穏健派、保守派の有力者が並び立ち、時には浮動票が無名候補に大量に流れて番狂わせの結果が起こることもあった。例えば、1997年に比較的知名度の低かった改革派のモハンマド・ハータミー師が女性や若者を中心とする無党派層の圧倒的支持を受けて大統領選挙で当選するなど、一定程度の競争と民衆の意思が選挙に反映されてきた。しかし、今回の選挙は、イスラーム体

制側がそうした余地すら許さず、低投票率であろうと、なりふりかまわず、本命のライシー候補を確実に当選させることを選んだことが窺える。その背景には、現在82歳のハーメネー最高指導者から次期後継者へスムーズに地位を継承させ、イスラーム体制を護持したいという最高指導者とその周囲の思惑があったことが考えられる。

表1 2021年大統領選挙の得票数

立候補者		投票数	%
イブラヒーム・ライシー前司法長官		18021945	62.0%
モフセン・レザーイー公益判別評議会事務局長（IRGC元総司令官）		3440835	11.8%
アブドゥルナーセル・ヘンマティー前中央銀行総裁		2443387	8.4%
アミールホセイン・ガズイーザーデ・ハーシェミー前国会議員		1003650	3.5%
無効票		3740688	12.9%

(出所) イラン内務省発表資料より筆者作成。 <https://tn.ai/2526593>

写真はライシー、レザーイー、ヘンマティーは本人の Twitter のアカウントの写真を利用。ガズイーザーデ・ハーシェミーは Tehran Times の画像を使用。

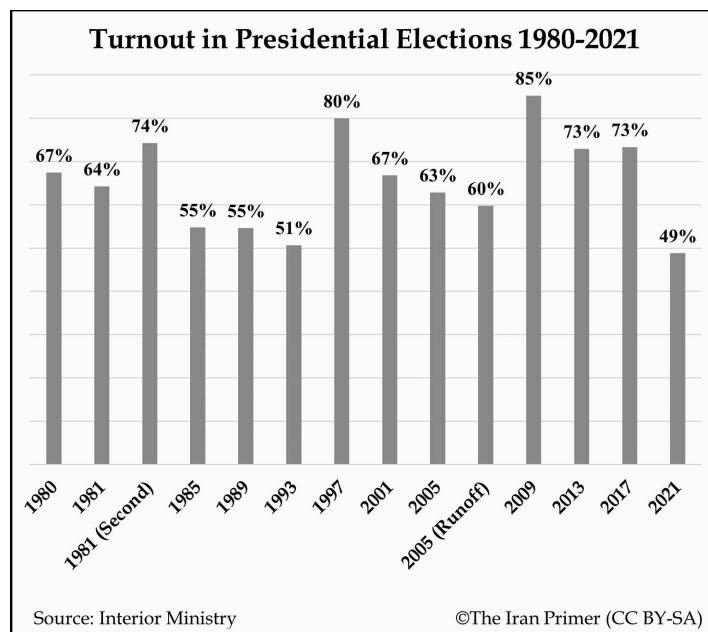
事前審査で立候補資格を却下された有力候補の中には、以前に資格を認められて大統領選に出馬したマフムード・アフマディーネジャード元大統領、エスハーク・ジャハーンギーリー前副大統領、アリー・ラーリジャーニー前国会議長がいた。政権末期にロウハーニー政権とハーメネー最高指導者の関係が悪化する中、改革派・穏健派の一部は、自派の有力候補が資格審査を通過する可能性が低いと考え、伝統保守派のラーリジャーニー前国会議長を支援しようとする動きがあった。そのため、顧問を務めるなどハーメネー最高指導者とは長年、良好な関係を維持してきたラーリジャーニー前国会議長の立候補資格の却下は、有権者やイラン国内外の識者に衝撃をもたらした²。それは、改革派や穏健派だけ

ではなく、シーア派宗教界やバーザール商人層など伝統的な中間層を支持基盤としてきた伝統保守派までも、イラン政界の中枢から排除する動きと分析できるからである。

今回の選挙の結果、強硬保守派が最高指導者に直属する革命防衛隊に加え、司法、立法、行政の三権の全てを掌握したことにより、国民が政治に参加する「共和制」の要素が弱まり、「イスラーム革命の精神を護持する人々」による寡頭政治の性格がより強まったと言える。最高指導者の交代を見据えて、政界の競争を少なくし、ひとつの派閥に権力を集中させようとする意図が働いたという見方ができる。

このように IRGC に近い強硬保守派一辺倒の体制に近づきつつある状況を物語る事例として、アリー・ラーリジャーニーの弟で公益判別評議会議長のサーデク・ラーリジャーニーの発言がある。監督者評議会委員でもあるサーデク・ラーリジャーニーは、5月25日に「大統領候補の事前審査において治安機関の圧力で不公正な審査が行われた」と公然と審査結果を非難した³。監督者評議会による事前審査は、これまで秘密のベールに包まれ、内部の情報が漏れることはほとんどなかった。そのため、この発言は異例なことであった。ライースイーと並ぶ有力な次期最高指導者候補と目されてきたサーデク・ラーリジャーニーは、ライースイーが統括する司法府によって2019年に側近の汚職が厳しく追及され、政治的な力を弱めつつあった。兄のアリー・ラーリジャーニーが事前審査でふるい落とされれば、兄弟そろってイラン政界から排除されるかもしれないことを恐れ、自らの政治生命をかけた抵抗であった可能性がある。しかし、ライースイーの大統領当選により、サーデク・

図1 イラン大統領選挙の投票率（1980～2021）



(出所) Nada, Garrett, “Raisi: Election Results Explainer,” *Iranprimer*, June 23, 2021.

ラーリジャーニーが最高指導者の後継者となる可能性はさらに後退し、ライースイーが後継者になる可能性が高まったといえる。

2. 大統領就任式

8月5日に、ハーメネイー最高指導者、司法長官、国会議員、IRGC司令官などイラン各界の要人と、アフガニスタン大統領、イラク首相、トルコ国会議長、欧州対外活動庁事務次長のエンリケ・モラなどの海外からの招待客を迎えて、イラン国会でライースイーの大統領就任式が開催された。ライースイー新大統領は、就任式で新政府の目標として人権の擁護と経済の回復を掲げ、外交に関してはイランの核開発計画は平和目的であると主張し、あらゆる外交手段を使って制裁解除を求めていくとする一方で、近隣国との関係改善を行うと演説した⁴。ライースイーの大統領当選後、欧米では、1988年の政治犯大量虐殺事件に関与し、2019年のイラン国内での抗議活動参加者に対する人権侵害のためにアメリカの制裁の対象となった人物が大統領に就任することに対する異議が唱えられた。こうした批判とバイデン政権の人権重視を意識し、ライースイー新大統領は就任式で「人権擁護」を強調したと考えられる。

大統領就任演説の中でもう一つ注目すべき点は、ライースイーが自らの責務を「革命の遺産の保護者」と表現し、「革命の第2段階に向けてイマーム・ハーメネイーの価値観に沿った」政策を実施すると強調したことである⁵。この発言は、ライースイー自身、ポスト・ハーメネイー体制へ支障なく移行させ、ハーメネイー亡き後もイスラーム体制を存続させていくことが自らの最重要使命と認識していることを示している。

3. ライースイー政権の特徴

ハーメネイー最高指導者は、大統領就任式で、ライースイーを称賛し、彼が選出されたことに満足の意を示し、早期に閣僚名簿を国会に提出し、迅速に組閣し、新政権をスタートさせるよう勧告した。しかし、おそらく保守派内での調整に時間がかかり、ライースイー大統領が閣僚名簿を国会に提出したのは、8月11日であった。ライースイーの選んだ閣僚を見ると4つの特徴が見られる⁶。

第一に、ハーメネイー最高指導者とライースイーに近い人物が要職を占めている点である。副大統領のモハンマド・モフベルは、最高指導者命令実施機関（Setād-e Ejrāye Farmān-e Emām: Setad）の総裁を10年以上務めてきた人物である。また、司法畑出身で明らかにライースイーに近いと見られる人物が、大統領府長官のゴラーム・フセイン・イスマイル前司法府報道官や、イランの司法府で長年防諜部門の責任者を務めたイスマイル・ハティーブ情報相、司法府でライースイーの文化アドバイザーを務め、今回、イスラーム文化指導相に任命されたメフディー・エスマイーリーである。

第二に、IRGC 出身者4名とその擁護者が閣僚入りを果たし、IRGC の影響力が拡大したことである。こうした傾向は、IRGC の政界中枢への進出を促進させたアフマディーネジャード政権と類似した性格を持つ。実際に、19人の閣僚のうち5人がアフマディーネジャード政権期に大臣あるいは次官を務めた経歴がある。

第三に女性閣僚が1人もいない。第四に、論功行賞人事ともとれる各派閥への大臣ポスト分配の努力が見られる。大統領選挙直前にライースイーのために立候補を辞退したアリレザー・ザーカーニー前国会議員（元テヘラン州大学バスイージ責任者）にはテヘラン市長のポストを、大統領選挙において第2位で落選したモフセン・レザーイー公益判別評議会事務局長（元 IRGC 総司令官）には、経済担当副大統領のポストが割り当てられた⁷。また、9月12日には、同じく大統領選挙で最下位であったアミール・ホセイン・ガズイーザーデ・ハーシェミーが、ライースイー大統領によって副大統領に任命されると同時に、最高指導者によって殉教者財団総裁にも任命された。

2021年8月25日に国会で約1週間の審議を終え、ライースイー大統領の提出した閣僚19名のうち、教育大臣を除く18名の大臣が国会議員から過半数の支持を得て大臣に就任した。8月25日に発足したライースイー内閣の中でも、今後、イラン核交渉の鍵を握る外相と、ライースイー大統領が万一任期中に最高指導者に就任するなど危急の場合、大統領代行を務める副大統領のポストを中心に、新内閣の特徴を以下で詳細に検討していく。

4. 「抵抗経済」を牽引する最高指導者命令実施機関出身の副大統領

副大統領と大統領府長官は、国会の審議を受けずに大統領が任命できるポストであるため、大統領の腹心が選ばれることが多い。複数選ぶことのできる副大統領の中で最も重要な第一副大統領に今回選ばれたモハンマド・モフバルは、最高指導者命令実施機関の前総裁で、ハーメネイー最高指導者に極めて近い人物である。イラン・イスラーム共和国憲法第130条によれば、「大統領の死去、解任、辞任、2カ月以上の疾病や不在、任期切れで新大統領が定まらないなどの場合、第一副大統領が最高指導者の合意をえて、大統領の職務と権限を遂行する」と定められている。そのため、現在、最も有力な後継者候補であるライースイーが最高指導者に就任した場合に大統領を引き継ぐ可能性があるため、現政権の第一副大統領はこれまで以上の重要性を持つ。

モハンマド・モフバルは、フーズスターン州のデズフルの名家の息子として1955/6年（イラン暦1334年）に生まれ、フーズスターン通信会社専務取締役、フーズスターン州副知事などを務めた。近年、水不足や停電により抗議活動が頻発しているフーズスターン州の諸問題に対応するために、同州に縁が深いという点もモフバルの副大統領起用に有利に働いたと考えられる。モフバルは、モスタザファーン（被抑圧者）財団の副総裁や商業・運輸機構長、シーナー銀行総裁などを歴任した。シーナー銀行総裁時代に、モフバルは最高指

導者事務所副所長のアスガル・ヘジャーギーを含む政治の要職者と親密になり、2007年に最高指導者命令実施機関の総裁に任命された。

モフベルは、総裁就任後、「バラカート (Barakāt: 祝福)」という名前の新たな財団を設立し、経済活動を増加させ、この組織をモスタザファーン財団に似たコングロマリット (巨大複合企業) に育て上げた。今や、最高指導者命令実施機関は、マシュハドのイマーム・レザー廟の寄進財産を管理するアースターネ・ゴドゥス財団、革命後に王室財産を接収して設立されたモスタザファーン財団、IRGC傘下のハータム・アル・アンビヤーと並ぶイラン国内最大の経済組織の一つに成長した。最高指導者命令実施機関は、工場、セメント会社、製薬、不動産業、投資会社、保険会社、慈善団体などを所有し、2013年のロイター通信の報告書によれば、その資産は少なくとも950億ドルに上るとされる⁸。2010年にモフベルは、イランのミサイルと核開発計画に関与した疑いで欧州連合 (EU) によって制裁をかけられたが、2年後にEUの制裁リストから削除された。しかし、2021年1月に彼の名前とアースターネ・ゴドゥス財団管財人のアフマド・モラヴィーの名前が米財務省の制裁リストに加えられた。最高指導者命令実施機関傘下のバラカート財団は、最近、イラン国産ワクチンの製造で注目を集めている。

最高指導者命令実施機関は、1989年の春、ルーホッラー・ホメイニー師がその死の2カ月前に側近2人に残した命令を起源としている。それは、革命後に前国王やその支持者たちから押収した資産を処分し、慈善活動に使うよう命じたものであった。最高指導者のこの命令を実施するために設立された組織は、当初、2年ほどで解散することが想定されていた。しかし、ホメイニー師の後を継いで、1989年6月に最高指導者に就任したハーメネイー師は、モフベルをはじめとする優秀な人材を起用し、最高指導者命令実施機関を約30年かけてイランを代表するコングロマリットに成長させた⁹。ハーメネイー最高指導者の権力の源泉とされながらも、その実態が明らかにされてこなかった最高指導者命令実施機関の総裁が、イランの副大統領に就任したことは、国民の選挙で選ばれる「共和制」を体現してきた行政府を、陰の権力組織が表に出て支配を行うことで、権力が一元化されようとしていることを意味する。

5. 外相——IRGCゴドゥス軍司令官故ガーセム・ソレイマーニーの秘蔵っ子

外相に任命されたホセイン・アミールアブドッラーヒヤーンは、2011年から2016年までアラブ・アフリカ担当外務次官を務めた57歳の外交官である。2015年のイラン核合意 (包括的共同行動計画: JCPOA) の成立後、アメリカとの関係改善を模索するモハンマド・ジャヴァード・ザリーフ外相は、IRGCの対外工作を担当するゴドゥス軍に近いアミールアブドッラーヒヤーンを2016年に外務次官から罷免した。その後、国会議長の顧問となったアミールアブドッラーヒヤーンは、IRGCを擁護する外交政策の発言を続けてきた。

アミールアブドッラーヒヤーンは、セムナーン州のダームガーン出身で、テヘラン大学で国際関係論の博士号を取得し、アラビア語と英語が堪能だが、メディアではペルシア語しか話さない。彼が最初に注目されたのは、2007年にイランとアメリカがイラクの治安について協議をするために行った直接会談に参加した時である。当時、イラン外務省のイラク特別本部の責任者であったアミールアブドッラーヒヤーンは、ライアン・クロッカー駐イラク・アメリカ大使と、IRGCゴドゥス軍出身のハサン・カーゼミー・ゴミー駐イラク・イラン大使の会談に同席した。イラン外務省イラク特別本部は、イラク政策を考案し、実施する上で優位にあったゴドゥス軍とのリエゾン・オフィス(連絡室)であった¹⁰。まだ若く、下位の肩書きを持つに過ぎなかったアミールアブドッラーヒヤーンが、革命後初のアメリカとイランの直接会談に参加したことは、IRGC、すなわち、ゴドゥス軍司令官ガーセム・ソレイマーニーの彼への信頼の深さを物語っている。

2007年のイラン・アメリカ会談は大きな成果はなかったが、アミールアブドッラーヒヤーンは、2007年に駐バーレーン・イラン大使に任命された。多数のシーア派を支配するスンナ派の支配者たちとの緊張緩和に努めたアミールアブドッラーヒヤーンの結果、イランとバーレーンの商取引は拡大し、両国の関係は改善しつつあった。しかし、2009年に前国会議長のアリー・アクバル・ナーテクヌーリーが「バーレーンをイランの第14番目の州」と呼んだことをきっかけにイランとバーレーンの関係は再び冷却化した。

2011年にアラブの春が始まると、アミールアブドッラーヒヤーンはテヘランに呼び戻され、アラブ・アフリカ担当外務次官に任命された。この時期から、IRGCゴドゥス軍は、アサド政権やレバノンのヒズブッラー、イエメンのフーシー派など抵抗戦線に連なる政府や組織を支援するために紛争に直接関与するようになっていた。ソレイマーニー將軍とゴドゥス軍にとって、軍事政策と外交政策の矛盾を回避することができる人物は、外務省内ではアミールアブドッラーヒヤーンにおいて他にいなかった。彼は、IRGCと外務省の調整役となり、IRGCの非公式な外交報道官の役割を演ずるようになった¹¹。

外相候補に指名されたホセイン・アミールアブドッラーヒヤーンは、8月22日に国会で演説し、核交渉の再開と、近隣国、特に湾岸諸国、サウジアラビアとの関係改善に努力すると強調した。同時にライースイー大統領の推進する経済の改善のためには制裁解除が必要であるが、前政権のように西側のみに依存するのではなく、アジア諸国との関係強化も必要であるとの発言がなされた。一方で、アミールアブドッラーヒヤーンは、ザリーフ前外相が非公式のインタビューでロシアが核協議を妨害したことや、イラン外交がソレイマーニー將軍をはじめとするIRGCの軍事拡張政策の犠牲になったと述べた発言を批判し、自分が外相になったら、外交と軍事政策の両方を推進すると述べた¹²。新外相は、欧米諸国や近隣国によって批判されているミサイル開発計画については触れなかったが、IRGCの推進する軍事拡張主義政策を明らかに支援しており、国益拡大のためには外交交渉とい

う手段も活用するという硬軟両方の側面を持った外交を展開していく姿勢が予想される。

今後、アミールアブドッラーヒヤーン率いる新核交渉チームは、イランが2019年以降にJCPOAの責務を段階的に停止して獲得した核技術や活動を凍結することと引き換えにさらなる対価を国連安保理常任理事国及びドイツ（P5+1）側に突きつけると考えられる。現在、イランの三権を掌握する強硬保守派内には欧米への不信感が強いため、イラン側はアメリカが再び合意を反故にする可能性を想定してぎりぎりまで核開発活動を進めつつ、イランだけではなく、アメリカを含めた全当事者が容易に合意の不履行をできないよう担保する条項の追加を要求すると想定される。他方で、ライースイー大統領もアミールアブドッラーヒヤーン外相も、イラン経済回復のために制裁解除が必要であることを十分に認識しており、イラン新政権は当面は粘り強く交渉に臨むことだろう。

6. IRGCが要職ポストを確保

ライースイー新政権にはIRGC出身者4名が閣僚入りを果たした。経済企画庁長官兼副大統領に任命されたマスード・ミールカーゼミーは、元IRGC指揮官でアフマディーネジャード政権で石油大臣や商業大臣を務め、2010年代初頭にイランの経済企画庁長官として大規模な財政汚職に関わったとされる人物である。ライースイー政権の道路交通相に任命されたロスタム・ガーセミー准将も、アフマディーネジャード政権期に石油大臣として国際的な制裁を迂回して石油代金を調達する中で不透明な資金調達や横領に関わったとされる¹³。彼は、IRGC傘下の複合企業ハータム・アル・アンビヤールの総裁を2007年から2011年まで務めた。IRGCの工作部隊を出発点とするハータム・アル・アンビヤールの関係者であるガーセミーを道路交通相に任命したことで、国家による道路や都市計画などインフラ事業の利権が今後、IRGCに多く分配されることが予想される。

文化遺産・観光相に任命されたエザトッラー・ザルガミーは、IRGCで司令官を務め、イランのミサイル開発計画に深く関わった人物である。彼は1990年代初頭にラフサンジャーニー政権のイスラーム文化指導省次官や国防省次官を歴任した後、2004年にハーメネイー最高指導者によって、イラン国営放送総裁に任命され、約10年間この組織を率いた。

内務相に任命されたアフマド・ヴァヒーディー准将は、元IRGCゴドゥス軍司令官で情報省の創設者の一人である。彼は1994年にアルゼンチンのブエノスアイレスでユダヤ人の施設を爆破した容疑で国際的な指名手配を受け、イランの核開発に関わった容疑でEUの制裁対象にもなっている。ヴァヒーディーは、アフマディーネジャード政権で国防相を務めた¹⁴。

内務省は、選挙の実施や警察権力の統括を担う重要な省である。イランで全国規模の抗議活動などが起きた場合、初動は内務省の命令で警察と治安維持軍が取り締まりを行い、それで鎮圧ができない場合、IRGCやバ斯基ージ（志願兵）が出動することになる。ポスト・

ハーメネイー体制の移行期に反体制活動や治安の乱れ、情勢不安の際には、IRGCと政府が連携して緊急事態に対応できるように、このポストにIRGC出身者が充てられたと考えられる。また、ライースイー政権成立後、州知事ポストにも前例がないほどIRGC出身者が多数任命された。つまりは、国内外の治安・外交政策の主導権をIRGCが握ったと言って良いだろう。

7. ポストと利権を巡る新たな争いの胎動

ライースイー新大統領は、自らを支持した保守強硬派を中心に様々な重要ポストを配分し、派閥の勢力均衡に努めている様子が窺えるが、保守強硬派内でより多くの分け前を獲得しようとして新たな権力闘争の萌芽が早くも現われている¹⁵。

8月4日にIRGC傘下のファールス通信が、新テヘラン市長に国会議員で大統領選挙の候補者であったアリーレザー・ザーカーニーが選出されたと報道した。その直後にテヘラン市議会議長のメフディー・チャムラーンは、報道を否定し、8月4日の投票は正式なものではなく、8日に新市議会発足後に正式な投票が行われると説明した。最終的には、チャムラーンと故ガーセム・ソレイマーニー将軍の娘のナルゲス・ソレイマーニーを含む若干名が、バーゲル・ガーリバーフ国会議長（元テヘラン市長）の右腕であったマーズィアール・ホセイニーに投票したが、21人の市議会議員のうち18名の得票を得たザーカーニーがテヘラン市長に選出された。その背景としては、大統領選挙直前にライースイーを支持して立候補を辞退したザーカーニーに報いるために、ライースイーやIRGCがテヘラン市議会議員に圧力をかけたとされている¹⁶。

アリーレザー・ザーカーニーは、イラン・イラク戦争時に少年兵として従軍し、戦後、テヘラン大学医学部に進み、放射線治療を学んだ。彼は、改革派サラーム新聞の閉鎖への抗議活動を鎮圧するために行われた1999年のテヘラン大学寮襲撃事件で、テヘラン州大学バスイージの責任者として、改革派の学生を襲撃したとされる。2004年に国会議員に初当選し、2008年にイスラーム宗教学者のモハンマド・デフカーン、IRGC指揮官出身のメフディー・ターイェブ、最高指導者の姻戚であるハッダード・アーデルとともに「革命の求道者協会（Jam‘īyat-e Rahpūyān-e Enqelāb）」という強硬保守派の団体を設立した。

アフマディーネジャード政権期には、国会内でザーカーニーは、強硬保守派の中でもウルトラ右派と位置づけられ、故メスバーフ・ヤズディー師の支持者が設立し、アフマディーネジャード政権で内務相を務めたIRGC出身の国会議員サーデク・マスーリーに率いられている「イスラーム革命永続戦線（Jebhe-ye Pāydārī-ye Enqelāb）」と同盟を結ぶことが多かったが、時にはそのメンバーと衝突することもあった。彼は2013年の大統領選挙に立候補したが、資格審査の段階で却下された。また、ザーカーニーは核合意には批判的でロウハーニー政権期には、IRGC情報局や最高指導者事務所の監査局局長のホセイン・フェダーイー

と協力して、ロウハーニーの弟のホセイン・フェレイドゥーンを含めた政敵の汚職追及の急先鋒に立った¹⁷。

イランでは大統領が閣僚リストを提出後、国会で約1週間かけて全大臣について賛成者2名と反対者2名がそれぞれ演説をして、適任かどうかを審議し、最終的に秘密投票で信任投票を行うことになっている。今回の閣僚候補の審議は、反対演説とは名ばかりで、質問と分析に終始し、形式的に行われ、比較的スムーズに過半数の信任票が得られた。しかし、情報相候補のイスマイル・ハティーブの審議の際に、「イスラーム革命永続戦線」が、大統領選でライースイーを支持したにもかかわらず、十分な分け前が配分されていないとして、ライースイーの選んだハティーブを激しく非難し、自派の候補のマフムード・ナバヴィアンを選ぼう要求した¹⁸。今後、強硬保守派内でもライースイーに近い主流グループとIRGC出身者、それ以外のウルトラ右派などが、各々の利害やイデオロギーに基づいて様々な動きを活発化させていくと考えられる。

おわりに

ハサン・ロウハーニー前大統領は、核合意によって制裁解除を達成し、欧米との関係改善によってイラン経済を向上させることを目指してきた。しかし、2018年にトランプ米政権が一方的に核合意から離脱することによってその政策は挫折し、イラン経済は悪化し、度重なる全国規模の抗議活動が起き、治安も悪化した。ロウハーニー政権への国民の支持が低下する中、国会、司法府、IRGC、メディアなどを支配する保守強硬派は、一致団結してロウハーニー政権とその支持基盤である穏健派と改革派を激しく攻撃してきた。その結果、ライースイーが大統領に選出され、行政府も保守強硬派の支配下におさまったが、保守強硬派内で早くも新たな権力闘争の萌芽が現われている。

今後も、テヘラン市役所や石油省、道路交通省など利権と深く関わるポストや、国家の治安と情報を握る情報省や内務省といったポストを掌握した人物や支持派閥の動向を観察し、イランが今後もイスラーム宗教指導者が君臨する「イスラーム法学者の支配」体制を維持していくか、IRGCの発言権の強い軍事独裁化の方向に向かうかを見極めていく必要があるだろう。

— 注 —

¹ Nada, Garrett, “Raisi: Election Results Explainer,” *Iranprimer*, Juner 23, 2021, <<https://iranprimer.usip.org/blog/2021/jun/23/raisi-election-results-explainer>>, accessed on June 25, 2021; 2021年6月23日付タスニーム通信「内務省が大統領選挙の最終結果を発表した。ライースイーの得票数は1800万票を越えた。」<<https://tn.ai/2526593>>, accessed on June 25, 2021.

- 2 2021年5月25日付 BBC Persia 報道「なぜ監督者評議会の決定は、体制をより専制的にし、国をより弱体化させるのか？」<<https://www.bbc.com/persian/blog-viewpoints-57237860>>, accessed on May 26, 2021.
- 3 2021年5月25日付 IRNA 通信報道「サーデク・ラーリジャーニーが大量の資格の却下に抗議：監督者評議会の決定をここまで弁護できない状況であるのは初めてである。」<www.irna.ir/news/84342986/>, accessed on May 26, 2021.
- 4 2021年8月6日付 BBC Persia 報道「就任式のライースイー：私たちは、人権の真の擁護者である。」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58108728>>, accessed on August 7, 2021.
- 5 2021年8月6日付 BBC Persia 報道「イブラヒーム・ライースイーの考える『新しいイラン』とは何か？」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58108728>>, accessed on August 7, 2021; 2021年7月31日に大東文化大学西アジア研究会におけるケイワン・アブドリ氏の報告「『革命の第二步』への一段階としての2021年のイラン大統領選挙について——ヴェラーヤト中心主義大統領の誕生の背景と軌跡」も参考にさせて頂いた。
- 6 2021年8月11日付 BBC Persia 報道「ライースイーの提出した閣僚リスト：外相にアミールアブドラーヒヤーン、内相にアフマド・ヴァヒーデー」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58069312>>, accessed on August 12, 2021.
- 7 2021年8月8日付 BBC Persia 報道「アリーレザー・ザーカーニーが正式にテヘラン市長に選出された。」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58137172>>, accessed on August 9, 2021; 2021年8月25日付 BBC Persia 報道「モフセン・レザーイーは、経済担当副大統領になった。」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58304031>>, accessed on August 26, 2021.
- 8 2021年8月8日付 BBC Persia 報道「ライースイー政権：モハンマド・モフベルが第一副大統領になった。」<<https://www.bbc.com/persian/58092745>>, accessed on August 9, 2021.
- 9 Torbati, Yaganeh, Steve Stecklow and Babak Dehghanpishe, “To expand Khamenei’s grip on the economy, Iran stretched its law,” *Reuters Investigates: Assets of the Ayatollah*, November 13, 2013.
- 10 Motevalli, Golnar, “Iran President picks hawkish diplomat to lead nuclear talks,” *Bloomberg*, August 11, 2021, <<https://www.bloomberg.com/news/articles/2021-08-11/iran-s-raisi-nominates-amir-abdollahian-foreign-minister-isna>>, accessed on August 12, 2021.
- 11 MEI Staff, “Amir-Abdollahian: The Soft Face of Iran’s Hard Power,” Middle East Institute, October 14, 2016, <<https://www.mei.edu/publications/amir-abdollahian-soft-face-irans-hard-power>>, accessed on August 12, 2021.
- 12 2021年8月22日付 BBC Persia 報道「ライースイー内閣：外相候補は、外交と武力の利用を強調」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58299326>>, accessed on August 24, 2021.
- 13 “Iran’s Raisi Forms Cabinet Including Terror and Corruption Suspects,” *Iran International*, August 11, 2021, <<https://iranintl.com/en/iran/irans-raisi-forms-cabinet-including-terror-and-corruption-suspects>>, accessed on August 12, 2021.
- 14 同上。
- 15 2021年8月5日付 BBC Persia 報道「イブラヒーム・ライースイーの考える『新しいイラン』とは何か？」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58108397>>, accessed on August 7, 2021.
- 16 “Iran’s Hardliners Split over Choosing New Tehran Mayor,” *Iran International*, August 7, 2021, <<https://iranintl.com/en/iran/irans-hardliners-split-over-choosing-new-tehran-mayor>>, accessed on August 9, 2021.
- 17 2021年8月8日付 BBC Persia 報道「アリーレザー・ザーカーニーが正式にテヘラン市長に選出された。」<<https://www.bbc.com/persian/iran-58137172>>, accessed on August 9, 2021; Mehrabi, Ehsan, “Career Controversialist Alireza Zakani Becomes Mayor of Tehran,” *Iranwire*, August 10, 2021, <<https://iranwire.com/en/features/10110>>, accessed on August 11, 2021.
- 18 Sinaiee, Maryam, “Raisi’s Key Ministers Approved by Khamenei, Iran Speaker Says,” *Iran International*, August 22, 2021, <<https://iranintl.com/en/iran/raisis-key-ministers-approved-khamenei-iran-speaker-says>>, accessed on August 25, 2021.

